

れよりもはるかに大であること、偽♀、偽♂の両性行動が同時に起る頻度は偽♂性行動の起る頻度よりもさらに小であることを報告し、つぎに多くの場合これら偽性行動の際に順位についての行動が先行していることを述べたい。たとえば、♂♂の間でたたかひが起り、優者が劣者を完全に追いつめてしまうと、前者は後者に求愛円舞をしきりに行う。

偽性行動の因子として、近來ホルモンまたは構造の異常性、♀の優位と♂の劣位、性的ドライブの抑制、異性 releaser による刺激の4因子が考えられている。

筆者はここで“性行動能性”を設定し、これが一定の社会順位関係によつて変化し、一定頻度の偽性行動を起し得ることを述べ、偽性行動生起頻度説明の1試案としたい。

ヤマガラの形態弁別能力について (II) 丘 直通 (東教大・教・心)

目的: ヤマガラには、やや複雑な幾何学的図形をどの範囲まで弁別する能力があるか、また何を手がかりとして弁別しているかを調べる。方法: 前大会にて報告した方法と同じ。ただ異なる点は、全実験に回転止り木により生ずる体位の平衡保全不能状態を利用しての罰を与えたこと、また、特に複雑な図形は、大図形を写真により縮小した物を用いた点である。結果: ヤマガラは正八角形と正十二角形を弁別し、また正八角形とその回転図形をも弁別することができる。それ以上は一般に困難である。また、縦縞傾斜正方形と横縞正方形の弁別学習の完了した個体に、横縞傾斜正方形と縦縞正方形とを与え、比較選択させる時、輪廓を手がかりとするものと縞を手がかりとするもの相半ばした。ヤマガラは、図形弁別にあたり、恒に輪廓と軸性を同時に手がかりとしているものとする。

綜 合 討 論

問 連鎖反応における反応序列の飛躍及び逆転をどのように説明されるか。(常木勝次)

答 隣接行動間のバンドの太さ、すなわち頻度のもつとも大なるものをもつて連鎖をなすと考えたのであつて releaser と drive をもつて説明したい。つまり両者の相互関係によつて起るのであつて飛躍、逆転も場合によつては起り得る。(小野嘉明・植松辰美)

ヤマネの分布 下泉 重吉 (東教大・動)

日本産ヤマネは地理的には本州・四国・九州に分布しており、北海道には産しない。つまり津軽海峡が境かい線となつている。気候的にいうと北海道に分布してよい筈であるが、今までのところ未発見である。ヤマネ科には8属が知られており、これを地図上にあらわしてみると、欧州及び小中央アジアから海岸沿いに日本の方向に進み、それが津軽海峡により北上をさえぎられるものとする。垂直分布からみると富士山の頂上で捕えられており、八ヶ岳ではハイツ帯まで分布している。標高からいうと低い限界に問題がある。今までの明かになつているところでは四国(緯度 N 35.5° 附近)の低限界が 880 m、下北半島(緯度 N 41° 附近)では平地にすむ。その間緯度の高くなるにつれて低限界が低くなる。ヤマネの垂直分布の低限界はヘビの分布と関係が深いと思われる。即ちヘビが殆どみられないところにヤマネが多数棲息している例が多いこと、東京でヤマネを多数飼育しているとアオダイシヨウが集つてきた例があること、マムシがヤマネを呑んでいた例があることなどで証拠づけられると考える。

問 ヘビ以外の天敵たとえばイタチ等は考慮されなかつたか。(大田嘉四夫)

答 イタチなどに喰われた例を見てないので、今のところ考えなかつた。もしヤマイイチなどに喰われるとしても低限界を規定するものではなからう。